

サンロケダム：ルソン島中部を破壊する事業

バヤン中部ルソン

声明文

2009年10月11日

熱帯低気圧ペベン（訳者注：台風 17 号）がもたらした豪雨により引き起こされ、また、大型ダムからの放水によりさらに悪化した洪水がルソン島北部および中部の広範囲に及んだことを受け、マルチ・セクター団体であるバヤン中部ルソン（新民族主義同盟 - 中部ルソン支部）は、フィリピンのルソン島中部における大型ダム事業を中止するよう、フィリピン政府に改めて要望した。

「これらの大型ダムに、住民は十分苦しんできた。政府はアグノ川統合灌漑事業（ARIIP）やタルラック州におけるバログバログダムと事業を推し進め、（すでにある）被害に新たな損害の原因を加えるべきではない。」と、バヤン中部ルソン代表のロマン・ポリントン氏は述べた。

アグノ川統合灌漑事業（ARIIP）は、サンロケダムの灌漑部門で、「ルソン北部農業ビジネス四角地域（NLAQ）」の下、アロヨ政権の優先事業の一つとされている。一方、バログバログ多目的事業（BBMP）はタルラック州サン・ホセ町アマモット村に建設予定である。別の大型ダムであるバリンティゴンはヌエバ・エシハ州ジェネラル・ティニオ町に建設が予定されている。

「マルコスの時代から、大型ダムは開発の名の下に建設されているが、住民、特に小農民や先住民は、これらの事業により移転させられ、被害を経験してきた。小農民は、高い水利費（ISF）を課せられた一方で、彼らの作物は、これらのダムの放水により水浸しになるか、水不足のため枯れてしまうかのどちらかである。また、洪水制御が役に立たず、多くの村々が洪水となってきた一方、電力消費者は高い電気代を支払っている。」と、大型ダムの異なる部門に言及しながら、ポリントン氏は付け加えた。

ルソン島中部の大型ダムには、ヌエバ・エシハ州のパンタバンガンダム、ブラカン州のアンガットダムがある。アグノ川上流のサンロケダム、ピンガダム、アンブクラオダムは、パンガシナン州とベンゲット州にそれぞれ立地しているが、過去、下流にあるルソン中部平野の洪水の一因となってきた。

バヤン中部ルソン、および、農民連合である TIMMAWA（アグノ川の自由な流れを取り戻す農民運動）と提携するバヤン・パンガシナン州支部は、何年にもわたり、サンロケダムとその関連部門の事業に一貫して反対してきた。こうした反対は、日本の国際協力銀行（JBIC）（訳者注：現国際協力機構（JICA））による ARIIP への一連の融資延期につながった。

2007 年、TIMMAWA 代表のホセ・ドトン氏の殺害、また、同灌漑事業の社会・環境影響の結果、JBIC（訳者注：同上）は同灌漑事業への融資を断念した。アロヨ政権はそれから、中国輸出入銀行に ARIIP、バログバログダム、ライバングダム、また、フィリピン内のその他の大型ダム事業への融資をせがんでいる。

「大型ダムが環境に影響をもたらし、住民の安全性を脅かしてきたため、アメリカのような産業国では、大型ダムが撤去されてきているにもかかわらず、一方で、ここフィリピンでは、私達の政府がこうした時代遅れの大型ダムを奨励し続けるのは皮肉である。」と、ポリントン氏は述べた。

「私達は、政府がコミュニティーをベースにした、また、（現地語で）『タンガル』と呼ばれる公共の灌

漑システムのような農民のニーズに柔軟に対応できる灌漑事業を奨励すべきである、という我々の要請を引き続き主張していく。」と、ポリントン氏は付け加えた。

「ARIIP はパンガシナン州の農民の灌漑ニーズに応えるものにはならない。特に乾季は、サンロケダムが発電を優先する一方、雨季には洪水制御部門のため、農地を水浸しにする。」という見解をバヤンは主張してきた。

「また、サンロケダムは、パンガシナン州とタルラック州北部の洪水の解決策にはなり得ない。サンロケダムは、(アグノ川上流で) 海外の鉱山会社が進めるコルディレラ地方での制御のきかない鉱山開発と伐採が、洪水自体の主要な原因であるという包括的な点を見逃している。」とポリントン氏は述べた。

報道や PAGASA (フィリピン気象庁) によれば、ペベン (台風 17 号) が 10 月 8 日から 9 日にかけて勢力の絶頂にあったとき、サンロケダムは 3,150 立方メートル毎秒 (cms) から最高で 6,000cms を放水した。放水はパンガシナン州の洪水を悪化させ、州の 48 市・町のうち 30 市・町に被害が及び、シソン町、ピラシス町、ロサレス町の堤防は破壊され、3 万人以上の住民が家を追われた。

「ダムがもたらした荒廃は、ダムが将来より甚大な大災害を引き起こす前に、ダムを撤去するよう要請しようと、私達により堅い決意をさせた。このダムは住民の利益には一切なつてこなかったし、これからもならないだろうが、フィリピンの官僚や外国企業を富ませてきた。」とポリントン氏は述べた。

サンロケダムは、ルソン島北部成長四角地域 (NWLQ) の一部として、主にコルディレラ地方の鉱山会社、プランテーション農業といった農業ビジネス、また、その他の同成長四角地域にある産業に電力を供給するために建設された。発電所は、日本の企業連合であるサンロケパワー社 (SRPC) が、フィリピン政府 (記者注: 厳密にはフィリピン電力公社 (NPC)) との 25 年の BOT 契約の下、操業している。

「甚大な環境・社会影響を伴う壮大な水力発電事業の代わりに、地元コミュニティの参加と協議の下、政府は分権化した、効率のよい、再生可能エネルギーを奨励すべきだ。私達は、太陽光、風力、地熱、また、小水力といった我々の国で入手可能な資源を利用することができる。」とポリントン氏は語った。

ダムは、ビンガダムやアンブクラオダムで目標以下の容量しか発電できていないように、大量の堆積を伴うため、再生可能エネルギーにはなり得ない。国際ナショナル・リバーズ (IR) のような環境団体が指摘するように、ダム自体の貯水池は、温室効果ガス (GHGs) の 1 つであるメタンを発する。ダムはまた、激しい降雨やより長期の旱魃といった温暖化が引き起こす両極端な状態に脆弱である。

「アロヨ政権は ARIIP や大型ダムを住民の開発のためであるかのように支持しているが、私達はそれをより貧窮をもたらす象徴であると考え。フィリピンの国民はもてあそばれはしない。」と、彼は結んだ。

ARIIP、バログバログダム、そしてその他の破壊的な大型ダム事業には反対する！
サンロケダムの操業中止と撤去を！SRPC の水独占を許すな！

連絡先： バヤン中部ルソン代表 ロマン・ポリントン

注： 広く認められている大型ダムの定義は、「基底部から 15 メートルの高さを有するもの、あるいは、5~15 メートルの高さであっても、300 万立方メートル以上の貯水量を有するもの」とされている。